

# ニホンイシガメの生息域外保全 岐阜大学淡水生物園



淡水生物園の現在の様子 (改修中)

岐阜大学が位置する岐阜市内では、岐阜市版レッドリスト(2023)で、ニホンイシガメを絶滅危惧Ⅱ類、ヤマトサンショウウオを絶滅危惧Ⅰ類と評価している。「淡水生物園」(2010~2011年造成)は、これらの淡水生物の生息域外保全をおこない、併せて保全研究や保全教育をおこなう場として、岐阜大学構内に整備した200 m<sup>2</sup>ほどの屋外人工池である。ニホンイシガメ自然飼育エリア、カメ研究飼育エリア、ヤマトサンショウウオ自然飼育エリア、幼体管理エリア(兼資材置き場)からなる。淡水生物園を活用して主に六つの活動をおこなっている。①岐阜大学周辺域のカメの生息実態調査(授業での調査含む)、②ミシシippアカミミガメ等の外来種の防除、③カメ類の繁殖生理生態に関する研究、④ニホンイシガメ岐阜市個体の生息域外保全、⑤ヤマトサンショウウオ岐阜市個体の生息域外保全、⑥これらの情報発信・普及啓発

ニホンイシガメエリアでは、管理上および繁殖上の問題解決のため、2025年度に入り、池の再造成と全体をネットで覆う工事を進めているところである。エコトーンを意識しつつ、2025年、園内に水田エリアを作り、稲を栽培中である。

[文・写真●楠田哲士(岐阜大学 教授)]



淡水生物園の看板



完成当時のカメ研究飼育エリア(2011年)



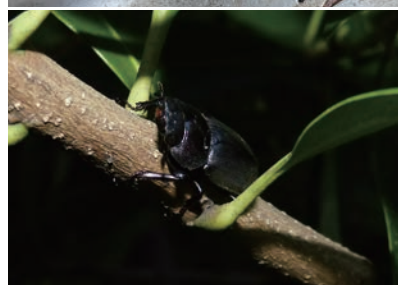
2025年に作った水田での稲の栽培



淡水生物園内のヤマトサンショウウオと園内で見つかった卵囊および幼生。「岐阜市自然環境の保全に関する条例」で指定される「貴重野生動植物種」であるため、岐阜市からの許可および委託を受けて、岐阜県立岐阜高校、岐阜県立大垣北高校、世界淡水魚園水族館アクア・トトギふと共同で生息域外保全を実施している。



園内や周辺で  
さまざまな生物が  
見られる



### 岐阜市内で捕獲したニホンイシガメ

近年は、岐阜市環境保全課がおこなう「岐阜市の自然情報継続調査事業」にも協力して、市内の淡水生カメ類の生息実態調査をおこなっている。四肢を欠損したニホンイシガメが非常に多く、以前と比べてニホンイシガメの個体数の減少やニホンイシガメしかいなかった生息地もかなり減少している。クサガメとの雑種も見つかっている。



園内で生まれたニホンイシガメの幼体



岐阜市内での最近の調査で捕獲したニホンイシガメとクサガメ（2025年9月23日捕獲）



孵化後数日のニホンイシガメ幼体は夜間に浅瀬で見つかることが多い。



幼体が見つかったあとは、産卵巣を捜索し、卵殻数から孵化状況を推定している。